

You only live once

名和中学校 3年 大久保真世

10時間の苦行のようなフライトを超えて降り立ったロサンゼルスはとても涼しく、過ごしやすそうな場所だなと僕に思わせてくれました。

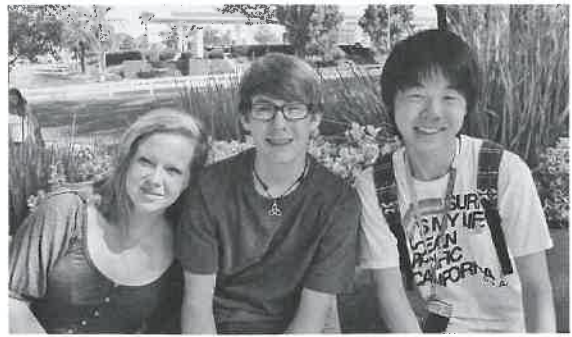
ドキドキの対面だったホストファミリーともすぐに打ち解けることができ、ほっとしました。

ファミリーファンデーには、サンディエゴの海に行きました。ビーチで、マイクとボディボードをしたり、ビリーやジェフリーとフリスビーをしたり、みんなでバレーをしたりしました。中でも一番の思い出が、砂に埋められたことで、頭だけ出している姿がとてもシュールだったと思います。

ホームステイ先で、お好み焼きを作ると「これ本当に日本の料理？アメリカの料理みたい！」と言っていました。味自体はとても美味しかったようです。ビリーがお好み焼きソースとマヨネーズを混ぜた味が「コーヒーみたい」と変なことを言っていました。楽しんでくれたようでした。

この日はケイトやキャサリン、ビリーに「Yolo」と「Swag」という言葉を教えてもらいました。

「Yolo」は人生一度しかないという「You only live once」の略で「swag」はカッコいいという意味らしいです。



▲ホストファミリーと一緒に

こんな楽しい家族とも明日が最後だと思うと寂しかったです。

次の日の朝、みんな来るのかなと思ったら家でお別れのようで、ハグをして別れました。別れがあまりにもあっさりしていたのが少し残念でした。車の中でホストファミリーのことやほかの友達のことを考えると、寂しいような切ないような気分になりました。

家に帰り、ホストファミリーに「無事に着きました。ホストファミリーのみんな、そして可愛い犬たちのことはずっと忘れません」と言うと、ジェフリーが「真世とニッキーと過ごす毎日が楽しかったよ」と言ってくれました。

この研修で一番の収穫は、友達ができたことです。アメリカへ行くまでは、他の人とここまで仲良くなれるとは思っていませんでした。この関係をずっと保って、いつか、近いうちにまたテメキュラへ行ってみんなに会いたいです。

お米ができた

— 大山小と交流 —

大山保育所

大山保育所では、小学生と共にいろいろな活動をするこ
とで、子ども同士が仲良くな
り、小学校への憧れや期待感
を持つてくれることを願っ
て、大山小学校と交流を続け
ています。

10月22日(月)、小学校5
年生と年長児が稲の脱穀をし
ました。

田植えのときには、恐る恐
る田んぼに足を入れていた子
どもたち。地域の方に教えて
もらいながら植えた苗が、大
きく育って稲となり、ハデに
かけられた様子を見て、不
思議そうな顔をしていました。

この日は、園児たちは小学
生とペアになって、小学生に
ハデから稲の束をはずしても
らい、脱穀機まで運ぶ作業を
がんばりました。

子どもたちは「かゆい」「お
もい」などと言いながら、地
域の方が機械に投入する稲が、
モミとワラに分かれて出てく
る様子に興味津々でした。



▲いっしょにヨイショ!

歩きなれない田んぼでの作
業は、子どもたちにとって大
変でしたが、地域の方から「が
んばるなあ」と声をかけても
らいながら、作業に汗を流し
ました。

保育所に帰り、年長児が年
下の子どもたちに「あー、お
もしろかった」「つかれた」と、
田んぼでの様子を話している
姿は、どことなく自信に満ち
て、微笑ましく感じられまし
た。

今後も「サツマイモ掘り」「落
花生の収穫」と小学校との交
流活動は続いていきます。活
動を通じて、子どもたちが地
域の方々に見守られながら健
やかに育ち、自分たちの暮ら
す地域を誇れる子になってほ
しいと願っています。